

③4 つなごう肱川プロジェクト

受賞機関 国土交通省 四国地方整備局 大洲河川国道事務所
 国土交通省 四国地方整備局 肱川緊急治水対策河川事務所
 国土交通省 四国地方整備局 山鳥坂ダム工事事務所
 国土交通省 四国地方整備局 肱川ダム統合管理事務所

キーワード つなごう肱川プロジェクト、若手・女性職員を中心とした
 広報チーム、肱川流域（水防災）緊急対応タイムライン

全建賞審査委員会の評価ポイント

豪雨災害を受け、国・県・市が肱川で進めるハード・ソフト一体となった緊急治水プロジェクトの実施。上下流の連携を意識したプロジェクト名のもと、タイムラインなどの防災対策のほか、若手の発想を活用した広報活動を展開しており、すべての関係者を巻き込んだ流域治水を進める全国の河川の先進事例となっている取組である点が評価された。

1. はじめに

肱川では、平成30年7月豪雨により甚大な浸水被害が発生した。この災害を受け、上流から下流まで関係機関が連携し、肱川流域全体の防災・減災のために、「肱川緊急治水対策（ハード対策）」と「肱川の減災に係る取組方針（ソフト対策）」が一体となった「つなごう肱川プロジェクト」を推進し、再度災害防止に取り組んでいる。また、事業の理解促進や効果などの広報活動に関して、若手職員が中心となり、様々な取組を展開している。

2. 事業の概要

「つなごう肱川プロジェクト」では、ハード対策とソフト対策を実施している。

まずハード対策としては、「肱川緊急治水対策」として緊急的対応を含めた3段階で実施することとした。概ね5年間では、平成30年7月洪水が越水しないよう、「激特事業」を中心に、築堤や暫定堤防の嵩上げ等の整備を実施するとともに、野村ダムと鹿野川ダムの操作規則の変更を実施し、また、野村ダム下流においては掘削などの対策を併せて実施することとした。また、概ね10年間で、平成30年7月洪水と同規模洪水を安全に流下させるために、更なる河川整備等を推進するとともに、山鳥坂ダム整備、野村ダム改良を実施することとし、対策を推進している。



平成30年7月豪雨（梅雨前線）※大洲市提供

ソフト対策としては、「逃げ遅れゼロ」、「社会経済被害の最小化」を目指す取組方針に基づき、各取組を実施している。

これら事業の「見える化」を図るため、流域4事務所の若手・女性職員を中心とした広報チーム「Rising肱川」を結成し、広報活動を実施している。

3. 事業の成果

ハード対策については、平成30年7月洪水が越水しないよう、令和5年度中の完成に向けて築堤及び暫定堤防の嵩上げを行っている。

また、ソフト対策では、国・県・市町等による「肱川流域（水防災）緊急対応タイムライン」の策定・運用が開始されており、また、若手職員が講師となり防災教育を実施し、「マイ・タイムライン」づくりを通して、各家庭の防災意識向上を図っている。

さらに、広報活動としてロゴマークによる事業の一体感の醸成、マスメディア活用、SNS投稿などにより、一定の理解向上が図られている。



広報活動の一例（SNS投稿、マスコミ説明会の実施）

4. おわりに

肱川流域では平成30年7月豪雨災害を受けて、地域を挙げて復興に取り組んでいる。事業の「見える化」の取組を行うことは、公共事業に対する理解促進につながり、地域の安心にも寄与すると期待される。今後も広報に関する取組を若手職員が中心となり継続していく。